

気がかりな姿のある児童がいる小学校の 通常学級における算数科の学習指導の工夫

— 授業のユニバーサルデザインの考えを生かして —

特別支援教育班 島村 博 (小学校教諭)

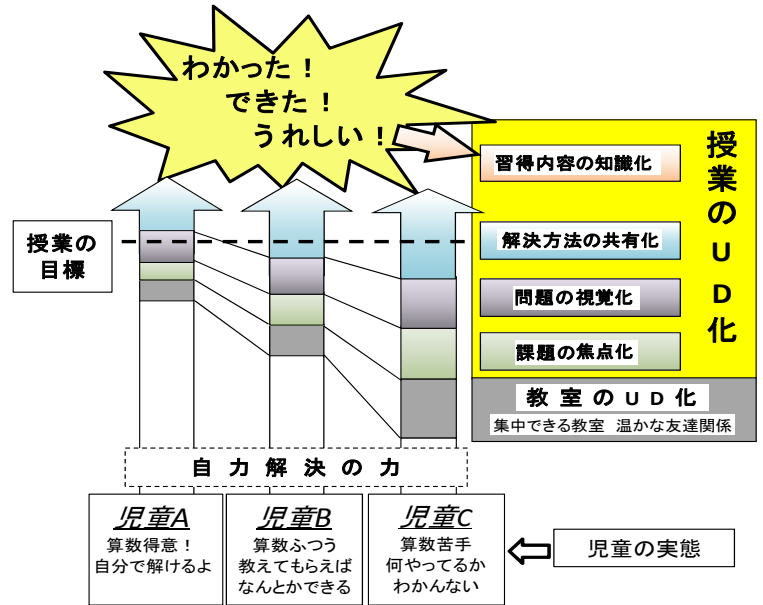
クラスの実態 = **能力差が大きい**
理解に時間がかかる子への個別支援になりがち

支援が必要な子でもクラスの人々と共に学び
合いながら「わかる喜び」をもたせられないか？

授業のユニバーサルデザイン化(UD化)

学習が理解できている子にとっても、
学習につまずきがある子にとっても
「あると便利な手だて」

「課題の焦点化」 「問題の視覚化」
「解決方法の共有化」 「習得内容の知識化」



課題の焦点化

- 導入の場面で、児童の興味・関心を引くとともに、何を解決すればよいのかをわかりやすい言葉で示す。
- (例)・「いつでも成り立つ比例の式を考えよう」
- ・「比例のグラフをかくにはどうすればいいの？」
- ・「比例の法則を使って問題を解こう！」

問題の視覚化

- ICT機器や具体物を用いることで言葉での説明だけではなく、視覚的に問題が把握できるようにする。
- (例)・大型テレビでの教科書の拡大提示
- ・プレゼンテーションソフトやフラッシュアニメーションでの例示
- ・具体物を使った問題解決的な学習

自分でどうすれば解決できるか、
わかりそうな気がするよ。

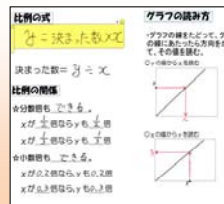
目で見て考えられるからわかりやすい。
自分でやり方がわかることがふえてきたよ。

解決方法の共有化

- 集団思考の場面で、児童によって課題が解決され、クラスの全員がその解決方法を理解し、評価し合える活動を行う。
- (例)・いくつかの中から解決方法を選び、黒板に名札を貼って意見を表明する。理由を発表、交流する。
- ・ペアを作り、学習した内容を互いに説明し合う。

習得内容の知識化

- 授業で理解したことを定着しやすくし、次時以降のふりかえりに活用しやすいようにまとめておく。
- (例)・要点まとめカードの作成
- 公式を書く 重要な言葉を書く
図にまとめる 図のシールを貼る



友達と考えが同じだったから、自分の考えに自信が持てたよ。
友達の説明を聞いてやり方がわかったよ。

大事なことを覚えられた。
問題をするときですぐに見直せた。

成果

- ・支援が必要な児童が個別支援に頼ることなく学習問題を解決する場面を多く見られた。今回の取組は他教科でも応用できるものが多く、その教科の特性や児童の実態に合わせて行うことで、みんながわかる喜びを得られる授業ができると考えられる。

課題

- ・児童が「わかった、できた、うれしい」という達成感や満足感を味わえるように、児童の実態に合わせて授業のユニバーサルデザイン化を工夫していきたい。
- ・今後は、算数科だけでなく、他の教科でもあると便利な4つの手立てを取り入れ、さらに実践を積み重ねていきたい。